

ランドマーク
Land Mark

日本最古の割石積み堰堤／滋賀県大津市

えんてい
オランダ堰堤



デ・レーケ銅像
オランダ堰堤のすぐそばに建つデ・レーケの銅像。日本の砂防や治山の工事を体系づけ、日本の土木事業に多大な功績を遺したことから「砂防の父」とも言われる。

“砂防の父”デ・レーケの遺産。

あなたが明治政府の「お雇い外国人」の一人として、オランダから来日したのは、1873年でした。

その後30年にわたって日本各地であなたが指導し建設した砂防堰堤や堤防は、今なお立派に役割を果たし続けているものも少なくありません。

日本最古の割石積み堰堤といわれる「オランダ堰堤」もその一つです。
奈良時代から平安時代にかけて、木材の伐採に伴う山の荒廃が引き起こした大洪水が、下流の村に大きな被害を与えてきた滋賀県の田上山一帯。明治22年、あなたの指導のもと造られたこの堰堤により、住民はやっと洪水被害から解放され、山に緑が蘇りました。周辺の景観に溶け込んだオランダ堰堤は、今も人々の暮らしを守り続けています。

オランダ堰堤
明治時代に施工された堰堤のうち最も古いものの一つ。デ・レーケの影響を受けた田邊義三郎が設計に関わり施工されたことから、デ・レーケにちなんで「オランダ堰堤」と呼ばれる。1988年に大津市の史跡として認定され、翌年には日本の産業遺産300選に選ばれるなど知名度も高く、近代砂防の象徴的存在として評価されている。

- ◆住 所：滋賀県大津市上田上桐生町
- ◆諸 元：高さ7m 長さ34m



副堰堤
本堰堤の約100m下流にある副堰堤は、長さが約34m、高さが1.4m。改修前にもっと高低差があったものと推定される。